最高・最新の医療を安心と信頼の下で

福井大学病院だより

UNIVERSITY OF FUKUI HOSPITAL

第11号
2008.5月
発刊号

新病院長あいさつ

病院の現況および再整備計画

臨床教育研修センター設置計画について

広報室が新しくなりました

UNIVERSITY OF FUKUI HOSPITAL TOPICS [泌尿器科・放射線科]

前立腺がんを切らずに治す!密封小線源治療

診療科・部門・施設のご案内

Team Gamba Rossa(チーム がんばろっさ)発進!

[看護部/内分泌・代謝内科]

特殊診療施設案内

[病理部]

病院の縁の下の力持ち『痛くない。安心。満足。』

[麻酔科蘇生科]

患者さんの声

長寿医療制度のお知らせ

□出来事　□イベント情報

福井大学医学部附属病院
0776-61-3111(代表)
様々な情報が満載です。ホームページもご覧ください。
http://www1.fukui-med.ac.jp/home/ufh/

[今月号の職員]
看護師長
高山 裕喜枝 たかやまゆきえ

病院の現況および再整備計画

福井大学医学部附属病院長
山口 明夫 やまぐち あきお

木々の緑も深まる頃となりましたが、皆様にはいかがお過ごしでしょうか。この4月1日付けで福井大学医学部附属病院長に就任致しましたので、一言ご挨拶申し上げます。大学病院は今年の10月で25周年を迎え、この間質の高い医療を提供し、高度・先進医療の開発、実践をして、地域医療の中枢としての役割を果たすとともに、良質な医療人を育成し、生涯教育により地域医療レベルの向上にも力を注いでまいりました。

2

これらの大学病院としての本来の使命を果たしていくためにも、経営の健全化を確立する必要があり、これなしには教育、研究が成り立たず、今後より一層の経営改善を図りたいと考えております。

さて昨年は臨床研究である治験業務に加えて、より高度で最新の診断、治療技術が多くの診療科で行われるように、治験・先進医療センターが開設されました。先進医療に関する新しい課題を募集して、19年度は14のシーズを採択し、各診療科が新しい医療技術を実践できるように支援しています。これらの研究を進めて、福井大学より新しい先進医療が発信されることが期待されます。さらに大学病院は地域医療の最後の砦でもあり、一般病院では対応困難な患者さんの診療が多くなされています。特に高齢化社会が進むにつれて、合併症を多く持った患者さんが増えることが予想され、益々大学病院の真価が問われることになると思われます。

近年全国的に医師不足が大きな問題となっておりますが、病院が活性化されるためには若い優秀な人材が必要となるのはいうまでもありません。初期臨床研修必修化により減少していた研修医も、私どもの研修プログラムが評価され、ここ2年間は30人を越えるまで回復してきました。今後さらに多くの若い人たちが、病院での研修を希望してくれるように、新しい技術や知識を提供する場としての臨床研修センターの設立を今年度中に予定しています。各種の実技修練機器を備えたスキルラボや、100名程度が収容できるホールもあり、研修医のみならず地域医療関係者にも生涯学習の拠点として、ご利用していただきたいと考えています。また初期研修終了後の後期研修医も今年はかなり増加しましたので、将来的には大学のマンパワーも充実して、病院がより活性化されると思っております。昨年より7対1看護体制を導入いたしましたが、今年も多くの新人看護師の採用が叶いました。今年度からは橘看護部長を中心として準備していただいた新しいプログラムに沿い、教育研修が行われることになっています。看護の知識・技術の取得とともに、メンタル面での強化も行い、温かい人間性にあふれた看護師の養成に心がけ、患者さんに対する看護もさらに充実したものになると確信しております。

ここで病院の再整備につきまして、少し現状を説明させていただきます。ここ数年、建物・施設の老朽化、狭隘により、患者の皆様には多大な迷惑をおかけしていると思われます。また医療をめぐる環境の変化等により、病院の改善・整備を行い、これらの諸問題を解決するのが不可欠となり、病院を再整備することが喫緊の大きな課題となっております。しかし、本大学病院は建設から20数年しか経過していないため建物の取り壊しは認められておらず、今ある建物を取り壊すのではなく、増築および改修による**再整備計画**の実施を予定しております。この間議論を重ねて、

1.先進医療の開発・実践と新健康フロンティア構想の実現
2.アメニティを重視した快適・安全な医療空間の提供
3.災害拠点病院としての機能強化
4.実践重視型教育環境の充実
5.効率的経営環境の構築

の5つのコンセプトを掲げました。現在は各ワーキンググループで現状、問題点、再整備の効果などの検討を進めていますが、二期もしくは三期工事となり、完成までには相当の年月がかかることが予想されます。この1年将来を見据えじっくり検討をして、10年後の完成時でも時代遅れとならないような再整備計画をたてていきたいと考えております。

今後とも『最高・最新の治療を安心と信頼の下で』の基本理念を忘れることなく、地域医療の中核として、すべての診療分野における最高の医療と最先端の高度な先進医療を、信頼のおけるスタッフにより、提供していけるように努力していきたいと思っております。

臨床教育研修センター設置計画について

副病院長　寺澤 秀一

福井大学医学部附属病院の開院２５周年記念事業として、前病院長の上田孝典先生のご提案で「臨床教育研修センター」の設置が以下のように決まりましたので、ご報告させていただきます。

【目 的】

1．初期研修医の先生方の勉強、交流の場

本院で研修される初期研修医の先生の数が次第に増えてきました。これは院内外の多くの方々の御理解と御支援によるもので、この紙面をお借りして心からお礼を申し上げます。この建物の最大の目標は50名を超えるようになりました初期研修医の先生方が独自に勉強会をしたり、勉強会の準備をしたり、研修医の先生同士が交流したりする場を確保して、研修の益々の充実を図り、将来、福井県で働く医師の確保につなげようというものです。
また、本院で研修される医師以外の職種の方々にも勉強や交流の場として利用していただける施設になるよう配慮しておりますので御期待下さい。

2．「スキルラボ」

コンピューター内蔵の人形（シミュレーター）をできるだけたくさん常備して、医学生、看護学生、研修医、新人看護師達が実技練習をいつでもできるようにした部屋を「スキルラボ」と言います。このような「スキルラボ」が全国の病院に作られ始めています。臨床教育は患者さんや御家族に御迷惑をおかけしないように、コンピューター内臓の人形（シミュレーター）などを利用して、まさに実際の現場を想定して、実技の練習を充分してから病院に出る時代になりつつあるということです。本院でもこの建物の１階に「スキルラボ」を設置することを決めました。

3．講習会、セミナー

院内外の医療職、患者さん、御家族が参加できる講習会、セミナーを頻繁に開催できる部屋をできるだけ多くこの建物の中につくり、多くの方々の利用に備えようと設計していただきました。100名ぐらいの方々が入れる大研修室を２階に作り、その他のスペースはセミナー室として利用していただけるようにしました。

【場 所】

「臨床教育研修センター」の建築場所は数箇所の候補地から病院再整備の用地も配慮して検討され、高エネルギー研究所とリハビリテーション部の間に決まりました。院外からおいでになられる方々の利便性も配慮して道路から分り易く、駐車場からも近いということでこの場所になりました。

【費 用】

建築費用は、多くの方々の寄付によって当てられることが決まりました。現在、院内外の多くの方々から続々と寄付が寄せられています。医療とは無関係の企業からも多額の寄付が寄せられており、期待の大きさに身の引き締まる思いです。

医師の偏在から医療危機が社会問題となり、地域での医師養成が大きな課題となる時代にあって、臨床教育の姿勢、手法、教育環境の整備が患者さんや御家族、地域の住民の方々、行政の方々も含めて、総力戦で取り組めた地域において、医療再生が成し遂げられると確信しております。この「臨床教育研修センター」がそういう多くの方々の顔が見える人のつながりができる場になることを願ってやみません。

【寄付のお問い合せ先】

寄付の募集は本年10月31日（金）まで行っていますので、開院25周年記念事業にご賛同いただき、ご協力いただける方は、下記までご連絡ください。必要な申込書等の関係書類をお送りいたします。

〒910-1193　福井県吉田郡永平寺町松岡下合月23-3
福井大学病院部経営企画課　　TEL.0776-61-8602

広報室が新しくなりました!!

副病院長 広報室長　橘 幸子

**このたび広報委員会の下部組織として、広報室が新しく活動を開始しました。
少数ですが、小回りがきく広報室として活動して参りたいと思います。**

広報室では、様々な手段を使って福井大学医学部附属病院をご利用になる方のみならず、県民の皆様に広く福井大学医学部附属病院の情報をお伝えしていきます。これまで広報というと、一方的に自分の主張をお伝えし“宣伝”するという風潮がありましたが、これからは、皆様と相互に情報交換し、病院側の情報をお届けするとともに、皆様からのご意見も伺い、互いが理解し合っていく、そんな広報を心がけています。ホームページの刷新、発行されるお便りやパンフレットの監修、発行等様々な仕事がありますが、広報室員一同、アイデアを尽くして頑張っていきたいと思います。今後ともよろしくお願いします。

[泌尿器科・放射線科]

前立腺がんを切らずに治す!密封小線源治療

前立腺小線源治療は放射線治療法の一つで、前立腺の中に小さな放射性物質(ヨウ素125の線源)を挿入し、がん細胞を死滅させるもので、アメリカではすでに15年以上の歴史があり、毎年5万人以上がこの治療を受けています。福井大学医学部附属病院では、2006年5月よりこの治療を開始し、北陸地区では初めての前立腺小線源治療ができる病院となりました。これまでに100例近い人が、この治療を受けられ、非常に良好な成績を納めています。

前立腺がんの患者様が増えています。

アメリカでは、前立腺がんは男性のがん罹患患者数の第1位で、「アメリカ人男性の6人に1人が生涯のうちに前立腺がんと診断される」と言われており、前立腺がん自体が深刻な社会問題にまでなっています。

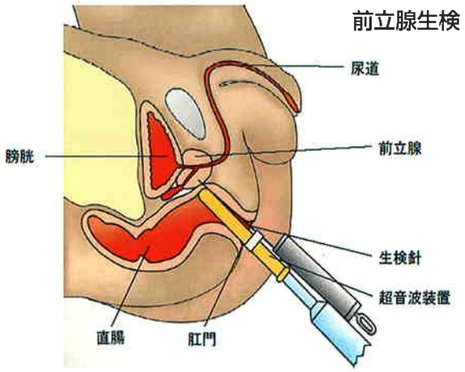
日本でもこのところ前立腺患者数は急上昇してきており、2001年には約7600人が前立腺がんで死亡されています。統計では2020年には前立腺がんに罹患する人は年間78,468人に達すると予想されており、その数は2000年の患者数の3倍にも上ります。

このような前立腺がん急増の原因としては、日本人の平均寿命が長くなり高齢者の数が増えていることに加えて、食生活の欧米化が挙げられます。また、簡単な血液検査PSA(前立腺特異抗原)で、前立腺がんの疑いのある方を見つけることができるようになったことも一因と考えられています。

早期発見・早期治療が大切です!

前立腺がんは初期にはほとんど症状がありません。前立腺がんの早期発見のためには、血液検査PSA(前立腺特異抗原)の定期的な検査が大切です。住民検診や人間ドックでの検査の際には、積極的に血清PSAを測定しましょう。

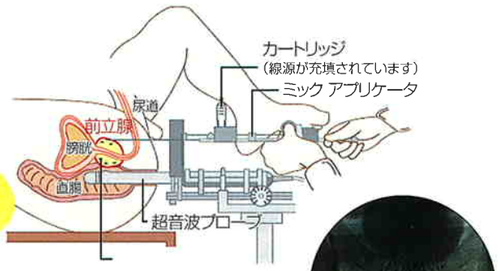
PSA 4ng/mL以上 ➡ 前立腺生検



前立腺小線源治療ってどんなことするの?

前立腺がんの治療には「ヨウ素125」という種類の線源を用います。この線源は非常に小さく長さが4.5mm、直径は0.8mmの金属カプセルです。肛門から挿入した超音波検査装置で前立腺を観察しながら、この小さなカプセルを陰のうと肛門の間の皮膚に針を刺して前立腺に埋め込みます。カプセルの中のヨウ素125から放射線が前立腺に照射されて、がん細胞を死滅させます。

カプセルから照射される放射線量は非常に弱いため、治療後に周囲の方に与える影響はほとんどありません。したがって、治療後もこれまで通りの日常生活が可能です。



小線源挿入の実際
日本臨床増刊号(前立腺疾患の臨床)
2002年より一部改変

小線源挿入後のレントゲン

前立腺小線源治療の特徴は?

治療風景

お腹を切らずに治します!(開腹しない)

小線源治療は前立腺にカプセルを埋め込むだけで、がんを切らずに治療します。

短い入院期間!

手術ですと3週間程度の入院、放射線外照射では6週間の外来通院(週5回)が必要です。一方、この小線源治療ではわずか3泊4日です。また、退院後も2−3ヶ月に1度の通院ですみます。

少ない合併症!

短期合併症として、カプセル挿入直後は血尿を一時的に認めることがあります。長期合併症としては、手術では70−80%に起こるとされる性機能障害ですが、小線源治療では30%程度に抑えられます。また、尿失禁もほとんど起こしません。

手術と同等の治療効果!

アメリカでの10年を超える治療成績から、小線源治療は手術療法と差がないことが明らかになりました。

こんな方にお勧めしています。

がんが前立腺内だけで、PSAが10ng/mL以下、組織検査で高分化がんと診断されている方は小線源治療のみで高い根治率が期待できます。PSAが10ng/mL以上、中分化がんの方でも、放射線外照射療法や内分泌療法を併用することで、小線源治療が可能です。また、75歳を超える高齢者の方、心臓などに重篤な合併症のある方で手術療法が受けられないような患者様でも、小線源治療を受けることが可能です。

もっと前立腺小線源治療についてお知りになりたいという方のために、福井大学医学部附属病院泌尿器科のホームページに「密封小線源治療」を開設しておりますのでどうぞご覧下さい。また、毎週火曜日午後に専門外来「前立腺小線源治療外来」をオープンしています。外来は事前予約制となっていますので、受診を希望される方は泌尿器科外来か地域連携センターで受診の予約を取った上でお出で下さい。

外来診察担当医師のご案内

		月	火	水	木	金
午前	初診・再診	大山 伸幸 金田 大生	秋野 裕信 棚瀬 和弥	三輪 吉司 前川 正信	横山 修 三輪 吉司 青木 芳隆	伊藤 秀明 楠川 直也
午後	初診・再診		大山 伸幸 青木 芳隆 三輪 吉司		高原 典子	

※火曜日の前立腺治療外来(大山・青木)は予約制です。前医からの紹介状と予約が必要です。
※火曜日の性機能外来、男性更年期障害外来(三輪)は予約制です。
※木曜日の午後は女医(高原)による尿失禁専門外来です。できれば予約してください。

Team Gamba Rossa(チーム がんばろっさ)発進!

[看護部/内分泌・代謝内科]

在宅療養相談室
糖尿病看護認定看護師 淺川 久美子

昭和63年から、糖尿病患者さんの患者会『医糖会』の一員として内分泌代謝医師・看護師・管理栄養士が活動を続けています。そこに、理学療法士・薬剤師・検査技師など各職種が加わり、少しずつ福井大学医学部附属病院糖尿病医療チームとして形づくられてきました。そして、2008年3月から、患者会活動以外でもチームとして患者さんを支援していきたいという思いで、新生『Team Gamba Rossa(チーム がんばろっさ)』として活動を開始しました。

これまでの活動

『医糖会』活動として、毎年、会員の親睦と運動を兼ねたイベントの企画会議を行ない準備をしています。昨年は勝山の福井県立恐竜博物館へのバス旅行でした。今年は、5月に越前市の八ツ杉千年の森への楽しい遠足を計画中です。

Team Gamba Rossa 名前の由来

チーム名の由来ですが、「gamba(ガンバ)」はイタリア語で、糖尿病では特に気を配りたい「足」という意味と、成句「in gamba」で「自立してる、元気でいる」等の意味があるそうです。福井弁の「がんばろうよ」とかけたベタなネーミングではありますが、じつは、患者さんが自立して、元気でいられるようにお手伝いできるチームでありたいという願いが込められています。

糖尿病教室の充実

糖尿病教室は月曜日から金曜日13:30〜14:10、10回シリーズで、西病棟6階のカンファンスルームで各職種が担当して行なっています。4月からは糖尿病教室用テキスト『これだけはおさえておきたい!糖尿病　虎の巻』を作成し、患者さんにお配りしています。これからも、患者さんに使っていただけるテキストとして、バージョンアップしていきたいと思います。

糖尿病教室の詳細については、在宅療養相談室か西病棟6階看護師にお問い合わせください。

『Team Gamba Rossa』は、「みんなでがんばろっさ!」を合言葉に、所属や職種の垣根を超えてネットワークを広げ、みんなで糖尿病患者さんの真に望むサポートを提供していきたいと思います。

新生『Team Gamba Rossa』のメンバー

糖尿病教室用テキスト

活動の様子/勝山の福井県立恐竜博物館にて

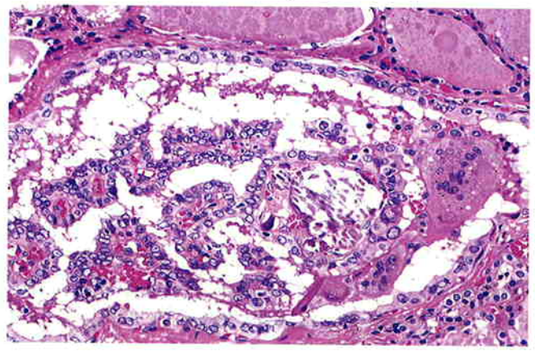
UNIVERSITY OF FUKUI HOSPITAL
診療科・部門・施設のご案内

特殊診療施設案内

[病理部]

患者さんの適切な治療のためには適切な診断が必要です。
そのために、患者さんの病変部の組織や細胞を採取し、顕微鏡観察用のガラス標本を作製します。
このガラス標本を顕微鏡で観察して診断するのが病理診断です。
病理診断は最終診断として重要な役割を果たしています。
病理部ではガラス標本を作製し、病理診断を行っています。

顕微鏡(中央)と電子カルテシステム(左)



がん(甲状腺がん)の顕微鏡写真。中央にがん細胞がみられる。

病理診断には「細胞診断」、「生検組織診断」、「手術で摘出された臓器・組織の診断」、「手術中の迅速診断」および「病理解剖診断」がありますが、病理部では「病理解剖診断」以外の病理診断を行っています。また、病理診断を専門とする医師が病理医です。

「細胞診断」とは、病変部を擦ったり、病変部に針を刺して採られた細胞や尿・喀痰などに含まれている細胞を集めてガラス標本に塗り、顕微鏡で観察してがん細胞が存在するかどうかなどを診断することをいいます。細胞診断においては細胞検査士 (国家資格をもつ臨床検査技師でかつ日本臨床細胞学会認定免許を有する技師)と病理医がダブルチェックを行い診断の精度向上に努めています。

胃・大腸などの内視鏡検査の際に病変の一部をつまみ採ったり、皮膚などにできものができたときにその一部をメスで切り採ったりして、病変の一部の組織をガラス標本にします。この検査を生検といい、その診断を「生検組織診断」といいます。また、手術で摘出された臓器・組織は、病理医が肉眼で病変の部位・大きさ・広がりなどを確認し、診断に必要な部分を必要なだけ切り取ります。生検と同様にガラス標本を作製し、「手術で摘出された臓器・組織の診断」を病理医が顕微鏡観察によって行います。そしてどのような病変がどのくらい進行しているか、手術で採りきれているか、追加治療が必要かどうかなどの治療方針の決定に役立つ情報を提供します。これらのガラス標本は臨床検査技師によって作製され、開院時より現在に至るまですべてのガラス標本が病理部で保管されています。

病変が体の奥にあるために生検が難しい場合は手術前に病理診断ができないため、「手術中の迅速診断」を行います。「手術中の迅速診断」では手術中に採取された病変組織から凍結ガラス標本を作製し、約15分程度で病理診断が行われます。診断結果は執刀医にインターカムで連絡され、手術方針の決定に役立ちます。また、病変が採りきれたかどうかの確認のため、手術中に取り出された臓器・組織の断端を調べたり、がんの転移が疑われる部位を調べて手術で切除する範囲を決めたりするときにも行われます。

病理部では舞鶴共済病院の「手術中の迅速診断」を遠隔病理診断 (テレパソロジー)で行っています。凍結ガラス標本がセットされている舞鶴共済病院の顕微鏡を病理部のコンピューターの画面を見ながら遠隔操作し、病理診断するものです。遠隔病理診断は病理医不在の病院のサポート手段として今後ますます威力を発揮すると期待されています。

病院の縁の下の力持ち『痛くない。安心。満足。』

[麻酔科蘇生科] 科長 重見 研司

麻酔科蘇生科の医師は、主に手術室にて全身麻酔に携わっていますが、手術室の整備を通して局所麻酔の安全管理にも貢献し、麻酔技術を応用して集中治療室やペインクリニックも運営し、緩和医療にも参画しています。
外科的ならびに内科的な高度先進積極的治療を支援し、患者の皆様の身体的精神的ストレスを取り除き、病院全体の環境整備を通して地域全体の健康と福祉の充実に貢献し、皆様に「安心」と「満足」を提供しています。

手術の麻酔(写真1)

皆様もご存知のとおり、近代医学の大きな進歩には、抗生物質の発見と全身麻酔の開発が欠かせませんでした。特に、第二次世界大戦の時代に気管内に挿管して気道確保する技術が進歩し窒息する危険性が少なくなり、麻酔の安全性が大きく向上しました。加えて、最近10年間に日本人によって発明されたパルスオキシメーターが広く普及し、この前後で手術中や手術後の死亡率が10分の1に減少したというデータもあります。

眠っている間に無痛で手術を受けることができ、ごく普通に安全に目が覚めることは、特に驚くこともない時代となりました。しかし、この麻酔は高度な技術と深遠な知識に基づいた先進医療の代表です。健康なときには特に関係の無いものですが、いざ手術が必要な病気やけがをこうむったとき、突然切実な問題となります。

手術直前の短い時間ではありますが、麻酔の必要性や危険性をできるだけ丁寧にご説明いたします。ご不明な点は遠慮なくご質問ください。患者の皆様が眠っておられる間、私たちは私たちの持っている力を最大限提供させていただいております。その知識と技術を常に最新のものとするため、業務の合間を利用して常に勉強し、また、国内外の学会にも参加させてもらい、最新情報を入手し、最新の医療を提供するように努力しています。

写真1：手術室全身麻酔ワークステーション

麻酔科医の関与は手術中だけではありません。(写真2)

もともと麻酔は手術のためのものでした。しかし、ただ単に手術ができればそれでよい麻酔ではすまない時代になりました。手術が高度で大きな長いものとなってきたこととも関係がありますが、手術中の鎮痛や出血対策などの生命の維持だけでなく、手術前には無駄な不安を取り除く必要があり、手術後には無益な創痛にわずらわされることをなくさねばなりません。ひとことで言えば、手術にかかわる全てのストレスを無くすようにしなくては、身体的にも精神的にも回復に支障を来たすことがわかってきました。

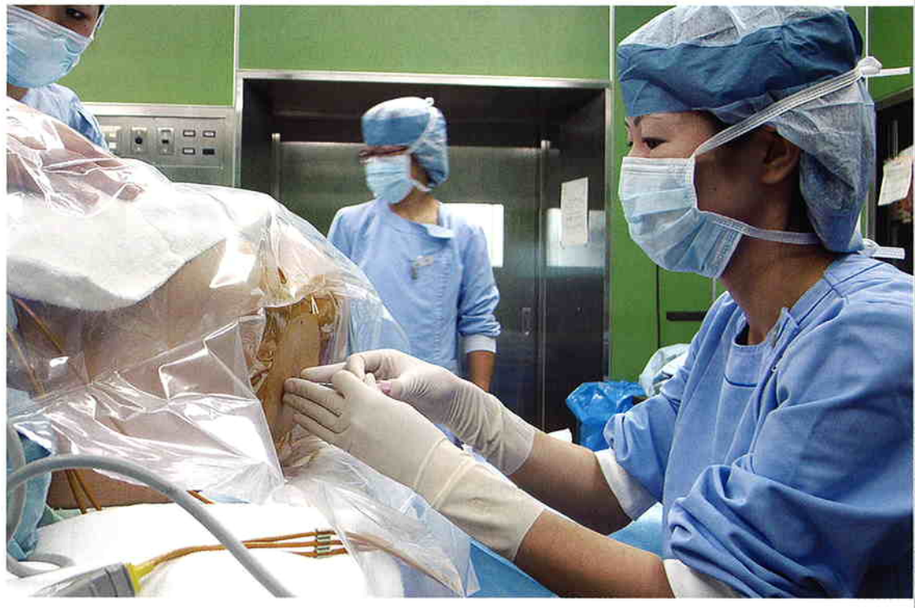


写真2：硬膜外チュービング処置中

また、そういった知識や技術は手術関連のみではなく、集中治療医療をはじめ救急医療やペインクリニック、緩和医療など広く応用できます。そうして医療全体の疾病に対する取り組み方にも変化が現れてきました。これまで、治療重視の医療であったもの、すなわち治療と医療が同義であったものが、治療が医療の一部という考え方となってきています。たとえば、癌に対して外科的治療が主流であった時代には、手遅れの場合や、取り切れない場合、再発した場合などは医療の対象外とされてきました。しかし、今は全ての状態に対して取り組むことができるようになってきていますから、外科的治療は放射線治療や化学的治療などとならんで攻撃的治療と位置づけられます。一方、緩和医療は終末医療とほとんど同義とされた時代もありましたが、医療によって傷病の生体に対するストレスを軽減するという立場では、傷病に罹患した当初から医療が全経過に関与することになります。麻酔科は主として痛みを軽減しながら、不安にも対処し、手術が必要であれば全身麻酔をし、放射線治療や化学的治療などで必要であれば集中治療室で全身管理を行います。このように、麻酔科医はチーム医療の核となって、患者の皆様や家族の方々と一緒に、看護師や薬剤師、栄養士、臨床工学技師などあらゆる医療関係者と連携して、全経過を通じて様々なストレスに対処します。

「麻酔科蘇生科」の意味(写真3)

当院の麻酔科医は麻酔科蘇生科を標榜しています。これは、麻酔科医の仕事の中で重症症例の全身管理をする集中治療や救命活動において、生命を維持し、瀕死の個体を日常生活に復帰させる作業をより明確に示すために初代教授が命名しました。英訳(Reanimation)を見ていただくとより明確ですが、単なる心肺蘇生（Resuscitation）の意味ではなく、蘇らせて復活させて元気付けるというその意味がはっきり分かる時代になりました。

(P12 に続く↘)

写真3：麻酔科蘇生科命名記念植樹の桜

病院の縁の下の力持ち『痛くない。安心。満足。』

[麻酔科蘇生科]

ペインクリニック（写真4）

手術中や手術後の痛みを取り除く技能の応用として始まった痛みの治療も、独立し新しい医療として認められてきました。「急性の痛み」は万病のサインですが、痛みそのものが疾病である「慢性の痛み」に対しては、これまでの医療では充分に対応できませんでした。そのような、他科で簡単には治療できない難治性の痛みを治療するのがペインクリニックです。

写真4：麻酔科蘇生科（ペインクリニック）外来受付

「意識」を対象とした脳科学としての麻酔科（写真5）

麻酔科蘇生科は病院の中で「意識」を取り扱う唯一の診療科とも言えます。臓器別診療科でそれぞれ各臓器を対象とした診療を行っていますが、麻酔科蘇生科は「脳」を対象として「意識」を調節します。これまでは、哲学や心理学の分野の対象でしたが、医療の対象として具体的な課題となっています。麻酔科医と言えば血圧や心拍数、呼吸機能の調節ばかりがこれまでクローズアップされてきましたが、集中治療室や検査室での鎮静の技術の進歩ともあいまって、患者の皆様に「安心」と「満足」を提供する医師としてその活躍の場の広がりが期待されています。

写真5：麻酔科蘇生科の白梅と4階医局の窓

あなたは知っていますか？
患者さんにやさしいオブジェがあることを！

左の画像は、病院の1Fに置かれている赤いポストですが、以前は街中で置かれて実際に使われていたものです。ただ残念ながらポストとしての利用はできません。

また右の画像は、2Fに飾られている赤いりんごの絵ですが、これはイタリアの有名な画家の作品です。どちらも患者さんを各検査室へ誘導するときに、お年寄りにもわかりやすく案内説明するためのオブジェです。

←1Fの赤いポストの場合
左側に『放射線部受付』、右へ少し歩くと『リハビリ』、直ぐ先右に『通院治療センター』があります。

2Fの赤いりんごの場合→
左側に『検査室受付』、右側に『内視鏡室』、真直ぐ行くと『透析室』。

出来事

平成19年10月～平成20年5月

10/23（火）17:30～19:00
看護部接遇研修　【テーマ】患者クレーム応対とコミュニケーションの取り方
山形先端医療研究所取締役　佐藤 美智子 氏

10/28（日）8:00～11:00（永平寺町志比小学校グランド）
平成19年度永平寺町総合防災訓練
地震による災害を想定した総合防災訓練

11/6（火）9:30～15:30
医療安全・質向上のための相互チェック
山口大学病院関係者による医療安全重点チェックシート項目及び感染対策チェックシート項目についての評価の確認作業，検食，現場視察

11/8（木）19:00～21:00（福井ワシントンホテル）
地域医療連携に関する本学OB等との意見交換会
本学医局OB又は本学医学科OBで福井県及び隣接地域の病院に勤務又は開業している医師と本院各診療科長等との地域医療連携に関する意見交換会

11/9（金）10:00～17:00
平成19年度医療監視
厚生労働省近畿厚生局及び福井保健所による医療法第25条第1項並びに同条第3項の規定に基づく立入検査

11/12（月）18:10～20:40
病院長と研修医との懇談会
初期臨床研修医と病院長等との臨床研修に関する諸問題についての意見交換

11/20（火）16:00～19:00（福井ワシントンホテル）
第5回福井大学医学部・関連病院長会議
医学部附属病院の現況報告並びに医学部及び医学部附属病院に対する意見・要望等について協議

11/26（月）11:30～12:00（永平寺町消防本部）
永平寺町集団災害救急救助事故に係る応援協定書調印式
永平寺町内における集団災害発生時の救急医療対策に関する応援協定の締結

12/13（木）14:00～16:30
平成19年度精神科病院に対する実地指導及び実地審査
福井県健康福祉部障害福祉課による精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第38条の6に基づく立入検査

1/19（土）～20（日）8:30～19:30（福井ワシントンホテル）
福井大学病院卒後臨床研修指導医講習会
福井県内の研修指導に当っている医師が参加して，研修指導の問題点や教育技法などについてワークショップ形式で講習会を実施

1/23（水）17:30～18:30
病院長説明会　福井大学病院の現況と展望について説明

1/29（火）17:30～19:00
医療接遇講演会　【テーマ】訴訟にならないための患者対応
講師：山形先端医療研究所取締役　佐藤 美智子 氏

2/8（金）18:00～19:00
平成19年度保険診療についての講演会
講師：福井県社会保険支払基金主任審査委員　山崎 義亀興 氏

2/18（月）10:00～10:30　（嶺北消防組合消防本部）
嶺北消防組合集団災害救急救助事故に係る応援協定書調印式
嶺北消防組合消防本部管内における集団災害発生時の救急医療対策に関する応援協定の締結

2/25（月）
治験・先進医療センター設置記念講演会
京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 健康情報学分野教授 中山 健夫 氏

3/4（火）18:00～19:30
地域医療連携部特別講演会
①地域医療連携部ディレクター　山村 修 氏
②恵寿総合病院院長補佐　脳神経外科長　東 壮太郎 氏

3/6（木）18:30～20:30
平成19年度福井県エイズ治療拠点病院連絡協議会教育企画特別講演会
①東京医科大学附属病院皮膚科　講師　加藤 雪彦 氏
②九州大学歯学部附属病院口腔総合診療部　教授　樋口 勝規 氏

3/7（金）17:30～18:30
「医療機関等における医療機器の立会いに関する基準」に関する講演会
講師：医療機器業公正取引協議会事務局長 赤松 征男 氏

3/11（火）13:30～15:30（福井ワシントンホテル）
第9回福井大学医学部附属病院運営諮問会議
本院の管理運営等について外部委員から指導・助言を得る

3/13（木）～14（金）9:00～17:30
ISO9001：2000第3回継続審査
審査員：BSIマネジメントシステムジャパン株式会社／ 野澤 祐輔 氏
技術専門家：横沢 俊一 氏

3/15（土）13:30～16:30（福井県立病院3階講堂）
福井県臨床研修病院合同説明会
県内の臨床研修病院7病院が一同に会し，学生を対象とした合同説明会を開催

3/17（月）18:00～19:00
院外処方せん様式変更に関する説明会（第1回目）
平成20年度診療報酬改定に伴う院外処方せんの様式変更及び後発医薬品の処方方法等に関する説明

3/19（水）13:00～15:30
平成19年度第2回松岡地区消防訓練
基礎訓練（患者搬送訓練）、総合訓練（避難訓練）

3/24（月）18:00～19:00
院外処方せん様式変更に関する説明会（第2回目）

3/25（火）17:30～19:00
平成19年度第7回医療環境制御センター研修会
【テーマ】平成19年度の医療安全と感染制御
①医療安全管理部GRM　江守 直美 氏
②医療安全管理部副部長　井隼 彰夫 氏
③WOC看護師　前田 友美 氏　④薬剤部副薬剤部長　中村 敏明 氏
⑤リンクナース　南部 千代恵 氏　⑥リンクナース　高田 由紀栄 氏
⑦感染制御部　森岡 浩一 氏

3/28（金）17:30～18:30
平成20年度診療報酬改定説明会

4/1（火）00:00～00:00
福井県の肝疾患に関する専門医療機関に指定
福井県健康福祉部長から福井県における肝疾患診療体制実施要綱に基づき指定（健第445号）

4/1（火）～11（金）
平成20年度新任臨床医等オリエンテーション

4/2（水）～4（金）
平成20年度看護職員実務研修

4/3（木）14:30～15:00
妊産婦診療連携に伴う勝山市・大野市からの寄附目録贈呈式
福井社会保険病院産婦人科と本院産婦人科の診療連携に伴う本院の医療機器整備を目的とした寄附目録贈呈式

4/20（日）12:00～16:00（石川県地場産業振興センター）
レジナビフェア 2008 in 金沢
卒後臨床研修に関する北陸地区臨床研修病院合同説明会

5/11（日）11:00～16:00（名古屋国際会議場）
東海北陸地区合同臨床研修病院説明会
卒後臨床研修に関する説明会

5/12（月）17:30～19:00
平成20年度第1回医療環境制御センター研修会
【テーマ】人とパソコンの感染対策と医薬品の安全管理
①薬剤部長　政田 幹夫 氏
②(株)田辺三菱製薬
③小児科感染対策委員　畑 郁江 氏
④医療情報部副部長　山下 芳範 氏

5/14（水）～16（金）8:30～12:00
平成20年度看護週間
【テーマ】看護のこころをみんなの心に
①認定看護師によるミニ講演会　「知って得するいろいろ情報」
②看護相談
③身長・体重・血圧・体脂肪測定
④一筆啓上賞　日本一短い手紙「夢」応募作品展示
⑤パネル展示　「認定看護師の活動」「看護のこころをみんなの心に」

患者さんのこえ

ここでは、患者さんから寄せられた『ご意見』や『ご質問』に対してお答えしていきます。
また、今後もご意見やご質問を受け付けております。
お気軽にご投稿ください。

よろず相談窓口で
ご意見やご質問を
受け付けております

患者さんからの声

乳腺・内分泌外科の担当医師について

病院長様へお願いいたします。乳腺・内分泌外科の医師1人では大変です。乳腺・内分泌外科の医師をもっと増やしてください。

お返事

乳腺・内分泌外科の患者さんの診療は、週4回、当科の前田医師が当たっております。検査等に関しては、他の外来の医師が手伝っていますが、術後の患者さん方は、どうしても主治医であった前田医師への希望が多く、患者さんへご迷惑をかけているようです。
現在、当科のスタッフも少なく、直ぐに増やすには困難な状態にあります。本年4月より、もう一人女性医師が乳腺・内分泌外科の診療に当たることになっておりますので、少し混雑も解消できるのではないかと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

患者さんからの声

歩行器への袋の取付けについて

歩行器に袋が付いていないのがありますが、点検して全部付けてください。また、杖の置き場所がないので、杖を固定するバンドを取付けてください。

お返事

院内の歩行器の収納袋についてですが、現在は外来に定数配置の6台を設置しています。これは、外来受診の際、帳票ケース等を収納していただくことを目的としています。
病棟にて歩行器を使用していただく場合、原則として私物を持ちながらの移動は盗難等の問題もあり、推奨していないため、あえて収納袋を設置しない方針です。今後、外来にて使用していただく歩行器の台数が増えた場合、台数分の追加を行いたいと思います。
また、杖を設置する方法については、歩行器メーカーから積極的な方法提示がなく、院内にて検討してまいります。

患者さんからの声

名前の呼び出しについて

診察券に黄色のステッカーを貼っているにもかかわらず、個人の名前を窓口にて呼ばれました。個人情報保護は、どうなっているのか教えてください。

お返事

ご迷惑をお掛けし、誠に申し訳ありません。
お名前を呼ばれたくない方に対し、黄色いステッカーにて職員の注意喚起を図っているところですが、診察室でお名前を呼ばれたようで申し訳ありませんでした。帳票ケースと診察券を患者さんにお持ちいただいているため、診察室では黄色いステッカーの存在が分かりにくくなっております。職員間の連携を強化し、お名前を呼ばずに診察室に入っていただけるよう心がけてまいりますので、よろしくお願いいたします。

患者さんからの声

化学療法用の食事について

化学療法をしていると、出てくる食事が食べられません。化学療法用の食事を考えてもらえないものでしょうか。

お返事

食事についてのご意見をいただき、ありがとうございます。
ご指摘のとおり、化学療法や放射線治療を行っている患者さんは全身倦怠感、発熱、嘔気、嘔吐、口内痛などさまざまな理由で食欲が低下しています。そのため、当院では化学療法や放射線治療を行っている患者さんを対象とした食事を設定しています。しかし、食べ易い食事の内容が、化学療法や放射線治療においてそれぞれ異なることから、化学療法時の食事と放射線治療時の食事の2種類設定することを計画しております。そのため、より食べ易い食事を提供できるよう、ご意見をお伺いしたいと思いますので、その際はご協力いただきますよう、お願いいたします。 また食事のことでお困りのことがありましたら、看護師にご相談ください。

平成20年4月から「老人保健制度」に代わり、「長寿医療制度」が始まりました。

● 長寿医療制度とは・・・?

平成20年4月1日、老人保健法が高齢者の医療の確保に関する法律に改正されたことに伴い、75歳以上の者などを対象とした新たな医療保険制度です。保険者は都道府県を単位とする後期高齢者医療広域連合です。

● 長寿医療制度の対象者とは・・・?

①75歳以上の者(75歳の誕生日から資格取得。閏年生まれの者は3月1日が資格取得日)
②65歳以上75歳未満の者であって、一定の障害の状態にある旨の後期高齢者医療広域連合の認定を受けた者(認定日から資格取得)です。

● 長寿医療制度の被保険者証は・・・?

各個人が長寿医療制度の被保険者となることから、健康保険被保険者証や国民健康保険被保険者証は交付されず、新たに後期高齢者医療広域連合から交付される後期高齢者医療被保険者証のみを持参することとなります。

● 診療報酬請求書(レセプト)は・・・?

75歳になった誕生月の誕生日前後で診療を受けた場合の請求は、75歳を迎える前の請求分と75歳以降の請求分との2枚になります。

イベント情報

公開講座

6/21(土)　13:30～16:00

医学部講演会

内　容　①「クスリの知識」
②「ペインクリニック ー様々な痛みの治療法ー」

講　師　①　医学部附属病院　薬剤部長（教授）　政田 幹夫
②　医学部附属病院　麻酔科蘇生科　准教授　廣瀬 宗孝

場　所　福井大学総合研究棟Ⅰ　1階　総合大1講義室（文京キャンパス）

募集人数　100名　対　象　一般　受講料　無料

公開講座

7月～9月（※グループ単位で募集）　19:00～21:00

女性のための健康増進講座（全2回を3回程度予定）

場　所　地区の公民館や集会所等（ご要望に応じて出張します）

内　容　生涯を通じて健康的でいきいきとした生活を送るために、女性特有のがんである乳がん・子宮がん検診を受けることの大切さや生活習慣病の予防について楽しく学びましょう。
　この講座は2時間程度の講習を2回行います。体験学習を多く取り入れ、体脂肪や骨密度の測定なども行っています。ご自身の健康を見つめなおすよい機会になればと思います。ご参加お待ちしています。

講　師　医学部看護学科臨床看護学講座母子看護学・助産学領域　教授　田邊 美智子　他

募集人数　20名程度／回　対　象　一般女性　受講料　無料（※資料代300円は受講者負担）

イベント

10/26(日)　10:00～16:00

キャンパス開放
福井大学一日遊学in松岡（松岡キャンパス暁祭と同時開催）

今年も，福井大学はキャンパスを一日開放して，大学の研究や教育内容を市民の皆さまに知っていただくため，「福井大学一日遊学」を開催します。見て，聞いて，学生達の熱気に触れて，そして盛りだくさんのアカデミックな企画も体験してください。きっと充実した一日になることと思います。

場　所　福井大学医学部　参加料　無料

イベント情報に関する問合せ先

福井大学地域貢献推進センター
（福井大学総務部評価課地域連携係）
TEL：0776−27−8060
http://tiiki.ab.fukui-u.ac.jp/facp/

福井大学医学部附属病院
広報委員会
〒910-1193　福井県吉田郡永平寺町松岡下合月23-3
広報に関するご意見、ご要望をお寄せください。
TEL:0776-61-8615
Email:bkoho@ml.ccns.u-fukui.ac.jp